

橋梁調査設計業務委託 特記仕様書

第1条 適用

この特記仕様書は、甲府市が準拠する山梨県県土整備部設計業務共通仕様書（以下〔共通仕様書〕という）でいう特記仕様書で、『橋梁調査設計業務委託』（以下「本業務」という。）に適用する。

- 2 受注者は業務の実施にあたり、契約書、共通仕様書、特記仕様書、設計書、並びに関係法規を遵守しなければならない。

第2条 設計範囲

設計範囲は、別途位置図に示す範囲とする。

第3条 履行期限

履行期限は、別途契約書に定める。

第4条 管理技術者

共通仕様書 1106条第3項に規定する技術士の部門は建設部門（選択科目：鋼構造及びコンクリート、土質及び基礎、道路のいずれか）とし、RC CMの部門は鋼構造及びコンクリート、土質及び基礎、道路のいずれかとする。

第5条 照査技術者

受注者は、共通仕様書 1107条第1項に規定する照査技術者を定めるものとする。又、共通仕様書 1106条第3項に規定する技術士の部門は建設部門（選択科目：鋼構造及びコンクリート、土質及び基礎、道路のいずれか）とし、RC CMの部門は鋼構造及びコンクリート、土質及び基礎、道路のいずれかとする。

第6条 提出書類

共通仕様書に定める提出書類の様式は、山梨県県土整備部が別途定める様式集によるものとし、定めなきものについては監督員の指示による。

第7条 一括再委託の禁止

受託者は本業務の主たる部分を再委託することは出来ない。なお、主たる部分以外を再委託する場合には、発注者に対し再委託の必要性、内容（数量）、再委託先等を記した「再委託承諾願」を提出し、発注者の承諾の後、再委託者との契約内容のわかる書類を発注者に提出すること。

第8条 安全等の確保

受注者は、関係機関と綿密な連絡を取り、本業務実施中の安全確保に努めるものとする。

第9条 業務の目的

本業務は甲府市 宝二丁目 地内 外において、一級河川相川を渡河する「相川新橋」（以下「本橋梁」という）の基礎構造の確認調査を実施し、本橋梁の耐荷力の照査を実施する事を目的とする。

なお、本橋梁の床版補修工事（平成14年度）の図面（橋梁一般図及び上部工詳細図）（以下、「既存図面」という）が存在するが、設計図面若しくは竣工図面であるかは不明である。このため、本業務において現地踏査を行い目視できる範囲の図面と現況との照合を行う。また地質調査において基礎（鋼管）杭の深度調査を磁気探査により行う。磁気探査はボーリング孔を利用して行うため、掘削と同時に標準貫入試験を行い、地盤状況を把握し、詳細設計の際に利用できるデータを収集する。

第10条 業務内容

1. 設計業務

(1) 打合せ協議

打合せ協議は、業務着手時、中間1回、成果物納入時を予定するが、電話・電子メール等

により随時おこなうものとする。

協議の内容は受託者が取りまとめ、発注者の確認を得た上で、2部作成し発注者・受託者が保管する。

(2) 現地踏査

現地において、近接可能な範囲で目視及び計測により既存図面との差異を確認し、必要に応じて既存図面の修正を行う。

(3) 既設橋梁の復元設計

① 既設橋梁の復元設計

現地踏査の結果及び既存図面から、上下部工の復元設計を行う。

② 既存橋梁の耐荷力照査

本橋梁の上部工主構の応力照査を行う。照査を行う活荷重は小型自動車程度を想定し、詳細については協議により決定する。

③ 橋脚基礎（既製杭）設計計算

本橋梁の基礎部は、パイルベント基礎であると想定されるが、地盤への埋設長は不明である、このため地質調査を実施し同時にボアホールスキャナ観測により埋設長の調査を行う。

この結果から、橋脚基礎の支持力照査を行う。

(4) 照査

本業務について照査を行う。照査の時期及び内容は、業務計画書に示し発注者の承諾を得ること。

(5) 報告書作成

本業務についての照査検討過程、結果等を取りまとめる。

2. 地質調査業務

本業務における地質調査は、既存橋梁の橋脚基礎（鋼管）杭の埋設深さを確認することも目的としている、このため既設橋梁の直近で調査を行うため既存橋梁への影響及び、本橋梁を通行する一般利用者に対して格段の安全確保を踏ること。

(1) 機械ボーリング

① 機械ボーリング

土質ボーリング 粘土シルト $\phi 86\text{mm}$ (ノンコア) 2m

土質ボーリング 礫混じり土砂 $\phi 86\text{mm}$ (ノンコア) 13m

掘削長は杭の埋設長を10m、支持層確認及びボアホールスキャナ調査の余長5mの合計15mを想定しているが、掘削長及び土質状況が上記と変わった場合には協議を行う。

(2) サウンディング及び原位置試験

① 標準貫入試験

粘土シルト 2回

礫混じり土砂 13回

(3) ボアホールスキャナ観測

基礎杭の埋設長を観測することを目的とする。現地の状況等によりボアホールスキャナ観測の以外の手法が有効、短期間かつ安価である場合は、受託者はその手法について提案し協議を行い変更する。

① 測定

機械ボーリング孔を利用して、ボアホールスキャナ観測により橋脚基礎（鋼管）杭の埋設深さを確認する。

② 資料整理・計算

測定結果を整理解析し、杭の埋設長を算定する。

(4) 既存資料収集・資料整理等

① 資料整理とりまとめ

機械ボーリングの試料の観察及びボーリング柱状図の作成をおこなう。

② 断面図等の作成

土質又は地質断面図の作成をおこなう。

(5) 間接調査

① 準備及び後片付け

資機材の準備・保管、ボーリング地点の整地・跡片付け、河川敷使用に関する協議・申請、位置出し測量を行う。

② 傾斜地足場（水深 50m以下）

機械ボーリング及び磁気探査に利用する。

現地確認を行い、調査の目的、一般通行者及び周辺住民等への影響を考慮し調査地点を決定するものとし、その結果、足場の種類が変更となる場合は協議を行う。

③ 調査孔閉塞

調査地点は河川敷内であり、既存橋脚に隣接するため、調査工の閉塞は確実におこなうものとし、閉塞に用いる材料については協議により決定する。

第 1 1 条 貸与資料

共通仕様書第 5 4 0 8 条第 3 項に定める資料の他、以下の資料を貸与する。

床版補修工事 図面 作成年度及び詳細設計又は竣工図書の区別は不明

第 1 2 条 成果物の提出

提出する成果物は以下を基本とするが、業務着手時又は成果物取りまとめ時に受発注者で確認する。

報告書（設計・地質調査） A 4 版 チューブファイル 2 部

縮小図面（A 3 判） 2 部

電子データ（形式は監督員が指示する） CD-ROM 2 部

地質調査結果 1 式